

# 飛泉

## 世界の中心は時計回り

### 世紀が変わる時は激動の時代となる

#### 予測しなかった英国EU離脱 米国トランプ大統領誕生

世紀が変わる時、政治・経済は大きく変化すると言われますが、今、その21世紀に入り、激動の幕が切つて降ろされ、その第一幕では予想もしなかった英国のEU離脱、第二幕では同様に予想もしなかったトランプ大統領の誕生です。まだこのような予想もしなかった第三幕・第四幕が起こることは間違いありません。何故なら世界の流れが大きく変わって行くからです。

19世紀まで続いたスペイン・ポルトガル・英国など欧州各国による植民主義の時代、そして20世紀米国による世界の警察の時代と続き、そしてオバマ大統領が世界の警察を放棄しまし

た。それをより明確にするのがトランプ大統領です。この様に今、世界の中心は消滅しつつあるのです。この世界の中心がないと言うことは、リーダー不在の状態と同じです。企業経営に於いても社長が不在の状態では経営は成り立ちません。それと同じです。

では21世紀の世界の中心は何処に行くのでしょうか。私は世界の中心は時計回りで回ると十数年前から講演でもお話して来ましたが、この頃はまだ米国が景気の良い頃であり、「ドイツでしょう」との意見が大多数でした。今、尋ねると「中国でしょう」との意見が大多数ですが、世界の中心になる最低の条件は「言論が自由な民主主義の国」と考えております。

21世紀の世界の中心は20世紀まで続いた武力や国

力ではなく、平和で・安心して暮らせるモデルになる国に世界の中心が移行すると考えます。しかし21世紀の新しい中心が決まるまでには紆余曲折があることは間違いありません。米国が世界の中心になるまでには第一・第二次世界大戦など多くの血が流されて来ましたが、この様に紆余曲折は歴史が証明しております。

では21世紀の世界の中心は何処か。私は「日本」と確信しております。では今、日本は世界のモデルとな

れるだけの力があるのか。では何時、世界の中心になるのか。どの様なモデルの国になるのか。それは「文化・経済・政治」の3つの条件があると考えます。

では日本はその条件が揃っているのか。残念ながらまだその条件は揃って

いません。この3つの条件の中で日本は「文化」は合格と考えます。その理由は「先人が作り上げた大和魂に培われたソフト・ハード両面の文化があるから」です。「経済」を象徴する円はドル・ユーロ・ポンド・元」と並び世界の主要通貨の一つですが、この経済は政治との関係性が深いことから50点と考えます。(P4へ続きます)



#### 紙面ご案内

P2 P3	第4回「活性化研修プログラムご案内」 稲意識活性化(活性化診断)
P4	政治の仕組みのモデルはない 問題点の共有化が必要

# 各種研修プログラムご案内

## 第4回 「活性化研修プログラムご案内」

### 稲意識活性化（活性化診断）

#### 稲意識活性化法

人の心（意識）は眼に見えないため、その成長度を測ることは大変難しいことです。しかし、意識改革を客観的に評価できなければ、適切なコンサルティングは成立しません。

成長度を測ること、つまり意識改革の評価を行うためには、評価を行うための拠り所（評価基準）が必要になってきます。この評価の枠組みには、「何を評価するのか」

という質的な判断の根拠と、「どの程度であるか」という量的な判断の根拠との2つが必要になります。前者の質的な枠組みの根拠を「規準」(criterion)といいます。それに対して、後者の量的・尺度的な判定解釈の根拠を「基準」(standard)といいます。目標準拠評価（絶対評価）であれ、相対評価であれ、まずは「規準」がなければいけません。その「規準」として「稲意識活性化法」を考案いたしました。又、これは行動観察などで必要となる到達や発達の程度を特徴的に捉えられる文章で記述された評定尺度などとしての基準の役目も果たします。

#### 稲式理論

「稲式理論」の柱となっているのが「一粒の粳（もみ）は一年後二千粒に」という稲になぞらえた人間が持つ無限の可能性です。米という字の意味は八十八の手をかけて初めて米が実ることであるとあります。よき人生を

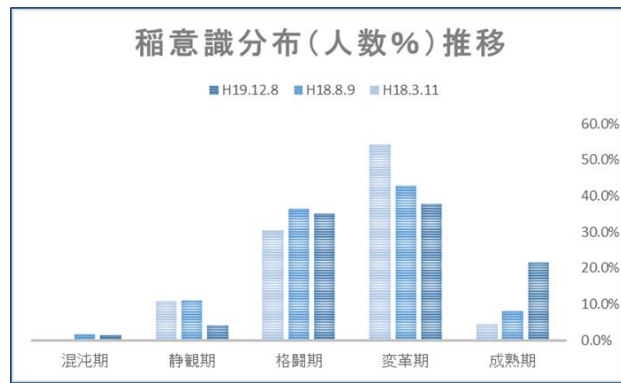
生きるためには、自分自身を成長させるために常に学習し、知識を習得し、知恵として活かせるようにしなければなりません。

その結果として初めて満足のできる人生を送れるのではないのでしょうか。この意識改革を1年というスパンで考えて見ると大きく分けて6つになります。到達や発達の程度としての評定尺度を含んだその具体的内容は次ページのようになります。

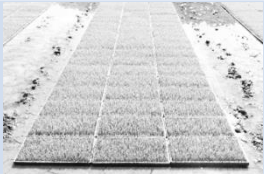

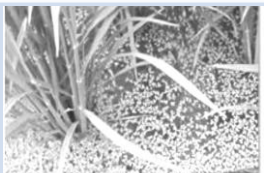

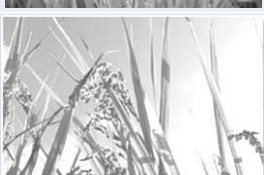
#### 活性化診断

稲意識理論に基づいた分類に基づき各個人の意識レベルを図るのが活性化診断となります。

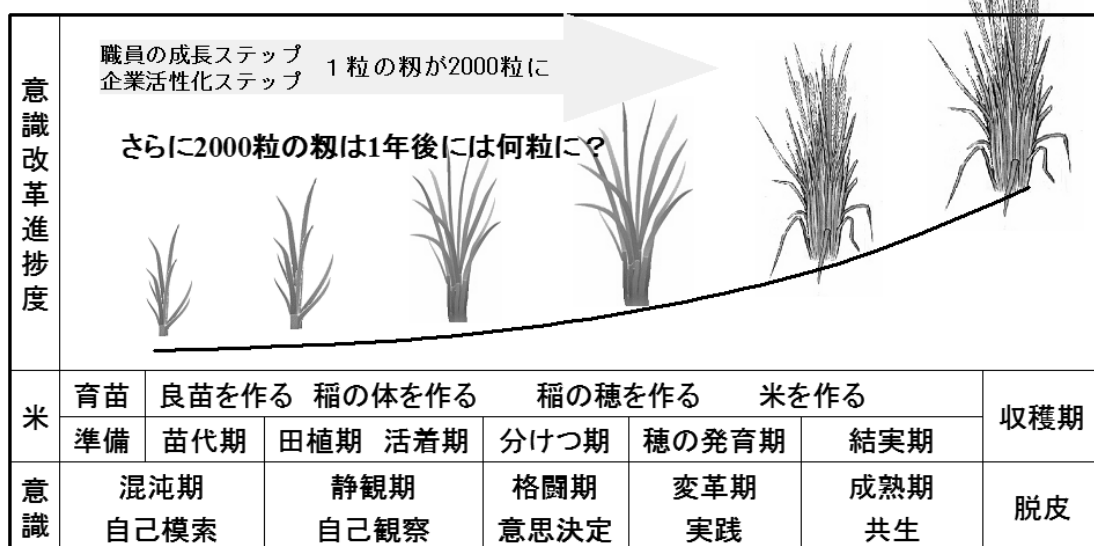
これは、組織全体を分析することで、組織の意識レベルを測る指標にもなります。



# 稲意識活性化

意識の成長		米の成長	
混沌期	何ごとも曖昧の上、成り行きで仕事が進んでいる状態。		準備～苗代期 米作りの最初の段階は種をまいただけの時。
静観期	自分自身に眼を向ける時。意識の変化の必要性が芽生える状態。		田植期～活着期 成長後の姿をめざし土に根付かせる時。
格闘期	「どうかしなければ」という自覚が進む時。周囲とのギャップに苦しむ状態。		分けつ期 枝分れがはじまり、余分な枝分れは、枯れて淘汰される時。
変革期	自分自身を変えるための実践の時。自分の意志で進むべき道を見出せる状態。		穂出期 成長から結実につながる変化の時。
成熟期	意識改革の最終到達点。自身を超えた周囲との共生を自然に考えられる状態。		結実期 結実し、次の世代へと繋ぐ、収穫の時。

## ・ 稲の生長と意識



## 政治の仕組みのモデルはない

では最後の「政治」はどうか。この政治は 30 点と考えます。その理由は「世界にモデルとなる政治の仕組みがないこと」です。今、貧富の差は大きく広がり、この貧富の差がテロを生み、世界の不安定要素を生み出しております。これを生み出しているのは政治の仕組みが時代にマッチしていないことが最大の要因です。では、どの様な政治の仕組みが必要なのでしょうか。この政治の仕組みを考える前に、私達が気付かなければならないことがあります。それを日本に当てはめると「今、日本にどんな問題があるのか」を誰も知らないと言うことです。この問題を明確にしなければ、問題を解消することは出来ないということです。

では問題を抽出し、解消することで政治の仕組みは変わり、世界は平和で、安心して暮らせ、テロや戦争のない世界が生まれるのでしょうか。私は国を変え活性化することも企業活性化と同じと考えます。当社は企業活性化を本業として

いますが、まず第 1 回の活性化研修で行うのが、スタッフによる問題点の抽出です。この出された問題点を「意識・組織・仕組み」に分類しますと「意識 2%・組織 5%・仕組み 93%」となります。問題点は社長や幹部にあると思っていたスタッフ

の多くが、この問題点の分類結果を知り、情報を共有化することで、仕組みを見直すことが多くの問題点は解消すると確信することになります。そして全スタッフが参加して仕組みの見直しをすることで、企業は活性化され、借金体質から収益体質へと大きく変わり、スタッフにはその見返りとして待遇改善が図られる様になります。それを生み出す最大の要因は「仕組みの見直しによる無駄の削除」です。

## 問題点の共有化が必要

このことは国に於いても同じと考えます。国に於いてもこの無駄が消除されないことから借金はどんどん増えて行くのです。まず「今、日本にどんな問題があるか」を明確にする仕組みづくりが必要なのです。ネットを活用すればどんな情報でも簡単に収集し、調査・分析できる時代です。国民一人一人が抱える問題はネットを利用して収集すれば、どんな問題があるかをしっかりと把握することができます。それを「意識・組織・仕組み」に分類すると、その問題の多くは仕組みにあることは間違いありません。この仕組みの問題を「どの仕組みの、どのプロセスに問題があるか」を明確にし、時代にマッチした仕組みの再構築を行うことです。このことで政治の仕組みは根底から変わり「世界のモデルとなる政治の仕組みが出来上がる」と考えます。それは同時に「世界のモデルとなる経済の仕組みの完成」です。

それはいつまでになるのか。米国が世界の中心になったのは日本が敗戦を迎えた 1945 年です。こう考えると 21 世紀の世界の中心が代わるのは 2045 年となります。それまでにはまだ 30 年という年月があります。

こんな夢の様な話とは思われるかもせれません

が、では今、日本の借金は 1000 兆円を超え、その返済の計画も立てられないまま、毎日借金は膨らんでいております。この借金を子や孫の末代までも背負わせてよいのでしょうか。余りにも無責任過ぎるのではないのでしょうか。早く時代が求める仕組みをつくる必要があるのです。「主権は国民にあり」と憲法に定められていますが、その主権とは何かを考え、私達国民自らが国の抱える問題を解消しなければ、主権は絵に描いた餅になってしまいます。

この続きはいつか本にしたいと考えております。

